

伝えたい、繋げたい、忘れることのない想い。

地震や津波の被害が大きかった東北沿岸部を中心とした広い地域では、現在も復興に向けた取り組みがなされています。

「私たちは被災地や被災者の方々に対し何ができるのか、何をすべきなのか」という思いから、

夏季休暇を利用して、2回にわたって「被災地ボランティア・視察研修」を企画し、実施いたしました。



被災地 ボランティア・視察研修

今回の「被災地ボランティア・視察研修」では、宮城県の中でも被害の大きかった地域で、ボランティア活動・現地視察・現地の方々との交流を実施しました。

第1次は、学部の垣根を越えて30人の大学生が参加。2日目の視察では、全校生徒の7割が津波によって命を落とした大川小学校と、港町が一時で壊滅した女川町を現地の方と回りました。年後は尚絅学院大学でのイベントで、被災後すぐに指定避難所以外の避難所に物資支援を行い、現在は被災者の就労支援に携わるパーソナルサポートセンター事務局次長 菅野拓氏の「被災地での仕事づくり」に関する講演と、尚絅学院大学の学生さんによる「被災体験・被災地での社会調査」に関する報告と本学経済学部学生による「防災マップなどの取り組み」についての報告が行われました。3日目は仙台市の沿岸部で農地を再整備し、畝づくり、種を蒔くボランティアを行いました。

第2次は、大学生24人と名古屋経済大学高蔵中学校・高等学校の中学生2人と高校生4人の計30人が参加。2日目の視察では、大川小学校と女川町に加え、火災の起こった門脇小学校を回りました。また、石巻仮設住宅永井団地にて住民の方に被災時と現在の状況についてお聞きしました。3日目は牡鹿半島鮎川地区の被災民家の竹を切り、草を刈るボランティアを行いました。

現地の状況、そして被災された皆さんやボランティアに関わっていらっしゃる皆さんのお話をうかがい、復興はまだこれからという印象を強く持ちました。

本学で取り組んでいる地域防災マップを通して現地学生との交流も始まり、今後のボランティア計画も進んでいます。今後も学生・生徒が核となってつながりを深めていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

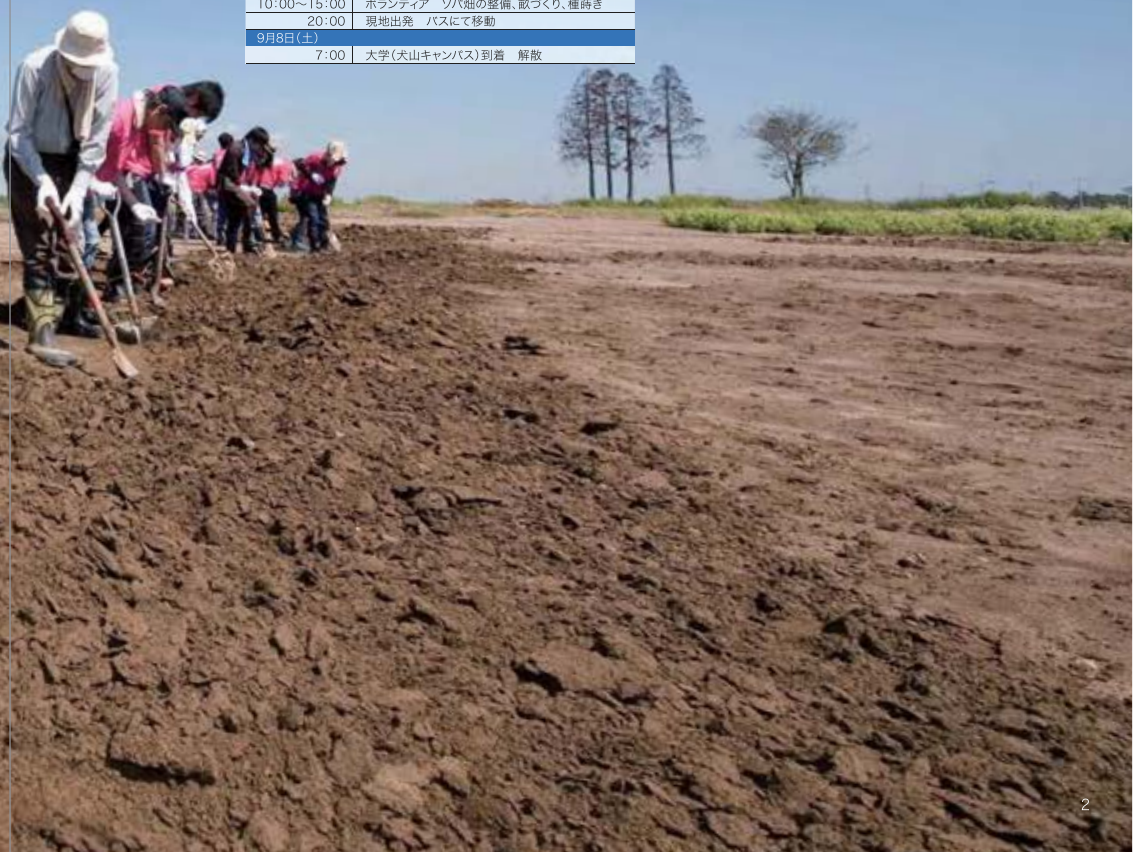
活動日程

●第1次(9月5日～8日)

日時	項目
9月5日(水)	
9:15～21:00	バスにて移動
9月6日(木)	
10:00～13:30	視察(大川小学校、女川町内)
15:00～18:00	尚絅学院大学でのイベント 講演「被災地での仕事づくり」 パーソナルサポートセンター事務局次長 菅野拓氏 報告「被災体験・被災地での社会調査」 尚絅学院大学 学生の方 報告「防災マップ等の取り組み」 名古屋経済大学 学生
9月7日(金)	
10:00～15:00	ボランティア ソバ畑の整備、畝づくり、種蒔き
20:00	現地出発 バスにて移動
9月8日(土)	
7:00	大学(犬山キャンパス)到着 解散

●第2次(9月15日～18日)

日時	項目
9月15日(土)	
8:15～21:00	バスにて移動
9月16日(日)	
10:00～13:00	視察(大川小学校、女川町内、門脇小学校)
14:30～16:30	石巻仮設住宅永井団地訪問(住人の方からのお話、住宅見学)
9月17日(月・祝)	
10:00～16:00	ボランティア 草刈り、竹の切除 (昼・夕食は仮設店舗で)
20:00	現地出発 バスにて移動
9月18日(火)	
7:00	高蔵中学校・高等学校到着 解散
8:00	大学(犬山キャンパス)到着 解散





- ① 「防災マップなどの取り組み」について語る本学学生
- ② 「被災体験」について語る尚絅学院大学学生
- ③ 「被災地での社会調査」について語る尚絅学院大学学生
- ④ 「被災地での仕事づくり」について語る パーナルカボートセンター事務局次長 菅野拓さん
- ⑤ 「ボランティア」畑の整備
- ⑥ 「ボランティア」ソノの種蒔き
- ⑦ 「ボランティア」草刈り、竹の切除
- ⑧ 第1次ボランティア集合写真
- ⑨ 火災で無残に残った自動車
- ⑩ 第2次ボランティア集合写真
- ⑪ 石巻仮設住宅永井団地を訪問
- ⑫ 永井団地の住人の方から被災体験を聞く
- ⑬ 大川小学校のねじ曲がった2階の渡り廊下
- ⑭ 仮設商店街の食堂での昼食
- ⑮ 津波の跡が残る大川小学校の壁画
- ⑯ 何もなくなった女川の港で港を聞く学生

● 第1次 ● 第2次

被災直後の実体験を聞き、衝撃を受けました

尚絅学院大学でのイベントの際、「被災地では公的支援の行き届かない場所があり、NPOが連携して物資支給を行った」という実態を聞きました。ある精神科の病院では「被災から2～3週間も支援が届かず、陸の孤島と化していた」という話を聞き、衝撃を受けました。また、学生からも被災直後の過酷な実体験を聞き、「当たり前」の生活が失われた時の自分について考えました。今回の経験を生かし、こうした活動にまた参加したいと思います。



経済学部 現代経済学科 3年 城 健斗 さん

震災を乗り越えようとする東北の皆さんに感動

今回、自分の目で被災地を見て、自分の手で壊れた建物にふれ、東日本大震災の被害を実感することができました。訪問先では地元の方やボランティアの皆さんから多くの話を聞くことができ、震災の瞬間や、直後、さらに、現在の東北の皆さんの生活も知ることができました。そして、震災を乗り越えようとしている東北の方々の姿を見て、自分も頑張らなといけなと思いました。これをきっかけとして、また東北へボランティアに行きたいと考えています。



経営学部 経営学科 3年 ゲン・スアン・ハウ さん

印象に残った仮設住宅に住む方々の話

今回、震災を一番身近に感じたのは、仮設住宅に住む方々の話を聞いた時でした。震災当時の悲惨な出来事や現在の状況を聞き、悲しみや怒りを感じました。私は被災していないので被災者の気持ちはわかりませんが、わかろうとすることはできません。仮設住宅の方々に「来てくれてありがとう」と言ってもらえた時、とてもうれしかったです。また会いに行くことがボランティアになるのではないかと強く感じました。



法学部 ビジネス法学科 1年 中山 真歩 さん

震災報告会(於:高蔵校「扇祭」)

被災地で感じた思いをリアルに伝えたい

今回の報告会における私の目標は、被災地で感じた思いをできるだけリアルに聴く人に伝えることでした。そのため、あえて生々しいエピソードを語りました。最初に津波の映像を流しましたが、「集まった皆さんが真剣に見てくれている」と実感することができました。この報告を聞いて、行動を起こす人が増えることを期待しています。



人間生活科学部 教育保育学科 2年 佐藤 健太郎 さん

「ありがとう」に気づいた、ボランティア体験

私は今回のボランティアに参加して、普段は意識することのない「ありがとう」に気づきました。学校に通える、大事な家族や友人と過ごせる、住む家がある、そして何よりも生きていられる「ありがとう」です。私は前向きに生きている被災地の方々を見て、勇気づけられました。現地の方からいただいた「ありがとう」は、私の中で最も嬉しい言葉です。



名古屋経済大学高蔵中学校 2年 名和 亜寿香 さん



高蔵校「扇祭」震災報告会で発表する古川屋さん

市民開放講座

日本人の底力 ―プロジェクトXから学んだ日本人の素顔―

名経祭の初日10月20日(土)午後1時30分より、犬山キャンパス7F2大教室にて比較文化研究会主催「市民開放講座」(以下、講座)を開催しました。講座は毎年、秋から冬にかけて全6回〜7回実施していますが、今年度の第2回は、名経祭講演会も兼ね、今井彰氏に講師をお願いし、「日本人の底力―プロジェクトXから学んだ日本人の素顔―」と題してお話していただきました。

今井氏は、元NHKの国民的人気番組『プロジェクトX』のエグゼクティブ・プロデューサーで、現在は作家として活躍されています。(近著に『ゆれるあなたに贈る言葉』小学館)。また、文筆活動にとどまらず、テレビのキャスター(BS11 報道プレミアム「ジュピターの英雄」)やラジオのパーソナリティ(JFN系列FMラジオ ON THE WAYジャーナル「今井彰のヒューマンエイジ」)も務め、今年4月からは本学客員教授に就任し「広告・マスコミュニケーション論」を担当されています。

講座では、「プロジェクトX」で実際に取り上げたいくつかの「日本人の底力」を紹介するとともに、「プロジェクトX」を世に送り出す際の苦労も語られました。たとえば、当初は今井氏を含めて7人という限られたスタッフでスタートし不眠不休で番組制作に取り組んだこと、無名の人々を主役にした番組では視聴率が獲れないと言われ続けたこと、番組テーマ曲をお気に入りの中島みゆきさんに書き下ろし歌ってもらえたこと、それまでNHKではタブーだった企業名と商品名を番組制作上どうしても欠かすわけにいかず、ついに放送させるにいたったことなどです。数々の前例やタブーを打ち破って「プロジェクトX」を世に送り出した今井氏自身の姿に「日本人の底力」を感じたのは私だけではなかったと思います。

多くの犬山市民および小牧市民の皆さんにご出席いただきました。また、熱心な学生の皆さんの姿も見られました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

短期大学部 キャリアデザイン学科
代田 義勝 教授(比較文化研究会会長)



Profile

いまい あきら
1956年大分県生まれ。本学客員教授。作家。元NHKエグゼクティブプロデューサー。「タイス少佐の証言」で文化庁芸術作品賞、「理もれたエース報告」では日本ジャーナリスト会読本賞を受賞。2000年放送開始の「プロジェクトX」は社会現象となり、第14回読本賞、第15回読本賞を受賞。2009年にNHKを退局しフリーに。2010年2月巨大放送を舞台にした小説「ガラスの巨塔」(幻冬社)、11月には「ゆれるあなたに贈る言葉」(小学館)を出版。



犬山オープンカレッジ

お金の面からみる日本の企業 ―特徴と変遷―

9月29日(土)、犬山国際観光センター・フロイデにて「犬山オープンカレッジ」を担当いたしましたので、その簡単な概要と様子を紹介いたします。

講座のテーマは「お金の面からみる日本の企業」で、戦後から現在までの日本企業の財務環境・財務活動にどのような特徴があって、どのように変化してきたのかをお話いたしました。また、事前にオーディエンスの方から質問状をいただき、それについても回答いたしました。内容は「自由貿易と保護貿易のどちらがいいのか?」「非正規雇用の多い状況で日本の若者はこれから結婚できるのか?」の2点です。前者は比較優位の観点から、後者は解雇規制の観点からお話いたしました。

さらに、質疑応答ではいろんな方から鋭い質問をいただき、勉強になることばかりでした。

緊張もありましたが、学会やワークショップでの報告とはまた異なる雰囲気、新鮮さを感じました。

ご来場いただいた皆様およびサポートしていただきました方々に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

経営学部 経営学科
野方 大輔 講師



日本を記念する音楽

10月20日(土)、第2回「犬山オープンカレッジ」を大学祭初日の本学7D4教室で行いました。例年大学祭開催中のオープンカレッジは聴講者が少ないのですが、本年は約50名の聴講者が大変ありがたいと思っています。講演のテーマは「日本を記念する音楽」。これは皇紀2600年を祝賀する音楽会を意味しています。皇紀2600年祝賀行事のために外国に依頼した作品の、当時の録音による演奏と現在の録音による演奏を比較し、その音楽と選考理由について私見を交え、また作曲家の写真やプロフィールを提示しながら講演しました。この種の講演会は音楽を聴くことが主なのか、話が主なのか、どちらも判断しないうちに時間だけが経過していくことが多いので、その辺りに注意しながらできる限り音楽を聴くことに集中していただくという考えで始めましたが、日頃の習慣からか話が長くなってしまったと反省をしています。2時間という時間は休憩なしで行う限界だと思います。

私のつたない話に最後までおつき合いただき、誠にありがとうございました。

人間生活科学部 教育保育学科
安藤 悦夫 教授(人文科学研究会)



企業法制研究所 公開講演会

企業法の現代的課題

10月19日(金)、企業法制研究所主催の公開講演会が開催されました。本講演会は、「企業法の現代的課題」を基本テーマに掲げ、今回で22回目を数えます。当日は、企業関係者をはじめ大学院生など、80名を上回る方々に聴講いただきました。

外部講師には元愛知県弁護士会会長、元日本弁護士連合会副会長などを歴任された山田靖典弁護士をお迎えし、「CSR※報告書はどこへ向かうか」を演題に、数多くの企業のCSR報告書の分析を通じた、CSR報告書の最新動向についてご講演いただきました。

また、内部講師として本学法学部長 富岡仁教授が「船舶からの油濁損害に対する賠償・補償に関する国際制度」について講演しました。国際社会において大型船舶の油濁事故における被害者救済の確保をいかに行うかなど、四方を海に囲まれる多くの船舶を運航・管理しているわが国にとって重要な問題を、被害者・加害者双方の観点から解説いただきました。長時間の講演会にもかかわらず、参加された皆さんは熱心に聴講されていました。

※CSR(corporate social responsibility)とは、企業の社会的責任。企業は利益を追求するだけでなく、社会に与える影響に責任を持ち、より高次の社会貢献や情報公開、対話を行うべきであるという考えです。

法学部 ビジネス法学科
美濃羽 正康 准教授



熱く聴講者に語りかける山田靖典氏



富岡教授の講演

「地域調査」報告会

7月22日(日)、倉曾公民館で「地域調査」の報告会を行いました。本年度も授業では、桑田倉曾地区の防災問題に取り組み、避難経路、災害時備蓄品、防災訓練等に関するアンケート、聞き取り調査を行いました。これに基づき、全戸を3〜4件ずつのグループに分け、要支援者、支援可能者を区別して、グループの集合場所や第1次避難場所である倉曾公民館までの避難経路をWEBマップ上に表現しました。また報告会では避難経路の説明とともに、災害時備蓄品や防災訓練についていくつかの提案をし、住民の方々から好評をいただきました。



報告会で発表をする中野大希さん

わいわい犬山フェスティバル

健康チェックに関心大

10月13日(土)・14日(日)、わいわい犬山フェスティバル(犬山市産業振興祭)において、人間生活科学部管理栄養学科の教員・助手と鈴木康夫ゼミ生が「健康チェック〜骨密度測定〜」を実施しました。

会場には200名の方々が列を成して押し寄せ、待ち時間がどの程度かぶり。皆さん健康に対する関心度は高く、体重・骨密度・血圧の測定結果により、本学教員の伊藤、堀尾、上延、鈴木が健康や栄養についての相談やアドバイスをを行いました。

年輩の方から、幼児を連れて若いご夫婦まで来場者の年齢もさまざま。健康診断は受けてはいるものの直接測定数値の解説や食生活の改善などきめ細かなアドバイスに、相談を終えた方々は口々に「参加できてよかった」「管理栄養士やお医者様と直接お話をできて安心しました」「これで食生活の偏りがなくなるかも」と喜んで帰っていかれました。

隣のブースでは、R.I.Aのメンバーが「地域安心・安全マップ」の体験コーナーを設け来場者一人ひとりにPR。また、14日(日)の屋外ステージでは、毎年恒例になっているプラスバンド部とエイサー部が会場を盛り上げました。

人間生活科学部 管理栄養学科
鈴木 康夫 准教授



熱心に相談される参加者



骨密度を測定する学生

共同研究契約書

6月21日(木)、佐々木雄太 学長とデジタルアース・ラボ社 代表取締役古瀬勇一氏により共同研究契約書の調印が行われました。2006年より経済学部とソフトウェアハウスである同社は、WEBGISを用いて防災を含めた地域の安全安心情報を可視化、共有化する研究を続けてきました。今後、調査に基づく生きた情報の収集と整理、IT技術の開発・改良という役割分担の下、地域に役立つ情報の在り方についてさらに研究を進めていきます。



佐々木 学長(左)とデジタルアース・ラボ社 代表取締役 古瀬勇一氏



さわやかな秋空のもと、若さはじける名経祭

今年の名経祭は、いちむら幼稚園の園児によるお神輿パレードでスタート!「ワッショイ、ワッショイ」のかけ声とともに、手作りのお神輿でキャンパスを練り歩きました。その後、ソーラン節と竹太鼓がオープニングを飾り、寺本明日香さんとレジャースポーツ代表の坂本コーチ、橋口コーちらによるトークショーへとバトンタッチ。また、教育保育学科3年の「微風(そよかぜ)」と昨年に続き、教育保育学科4年の「KU48」が、100時間を超える練習の成果を元気いっぱいのパフォーマンスで披露してくれました。

ベトナム風お好み焼きや焼き鳥など、さまざまな模擬店と売り子の威勢のよい声がお祭り気分を盛り上げ、エイサー部の勇壮なかけ声と太鼓の音がキャンパスに響き渡りました。このほか、「東日本大震災復興支援ボランティア報告会」や保育科の学生が3号館をジャックして、ゼミごとに工夫をこらし、「人形劇」「つくって遊ぼう!」などを実施しました。



チームで運営した学園祭が大切な経験に

昨年の第9回名経祭に続いて、実行委員長を担当しました。実行委員は、事前準備はもちろん当日の運営、さらに協賛していただける地元企業とのやりとりなど、名経祭を行う上で必要なすべてを担当しています。本番を迎えるために、2日(火)から泊まり込みで準備をした名経祭。みんなの楽しそうな顔を見て達成感を感じ、自分にとって大切な経験ができたと思っています。



経営学部 現代経済学科 3年 名経祭実行委員会 委員長
長屋 智保 さん

名経祭を通じて自分の目標を再確認できた

保育科ではゼミごとに、模擬店を出したりパネルシターや作品展示を行ったり、子どもに遊んでもらえる取り組みをしました。私たちのゼミでは粘土を使って、おすしやさん体験してもらいました。名経祭は子どもとふれあうことの多い貴重な時間。この体験から、子どもと過ごす時間が大好きなんだと再確認。同じ目標を持つ友人とともに、立派な保育士になりたいと強く思いました。



短期大学部 保育科 1年 植木 穂乃香 さん(左)と 小田 世理奈 さん



- 1 ステージを見に訪れた、多くの方々
- 2 いちむら幼稚園児による竹太鼓の演奏
- 3 漫画研究部のコスプレ
- 4 わらべの「模擬店」で見つけた笑顔
- 5 エイサー部のステージ
- 6 「東日本大震災復興支援ボランティア報告会」の会場
- 7 「東日本大震災復興支援ボランティア報告会」で発表する法学研究科修士課程 青木 拓磨さん
- 8 保育科1年生による「人形劇」コーナー
- 9 手作り人形を操る「わらべ」の二人
- 10 「つくって遊ぼう!」紙コップロケットで遊ぶ子ども
- 11 KU48のステージ
- 12 嵐に近づけた? 微風のパフォーマンス
- 13 川添ゼミ生による「駄菓子屋さん」

沖縄の伝統芸能でみんなに元気を届けたい

沖縄でお盆の時期に踊る伝統芸能「エイサー」の演奏を披露する活動をしています。名経祭でも太鼓と部員みんなの掛け声で演奏を見てもらい、昨年よりもさらに良い演奏が出来たことに満足。

老人ホームや病院などを訪れ、練習も週3回行っています。みんなに元気を届けられるエイサー部! オープンキャンパスや祭りなどで見かけたら、ぜひ注目してください!



経営学部 経営学科 2年 エイサー部 部長
仲村 力也 さん

みんなでダンスを作る喜びを感じています

ダンス部ではジャズダンスやガールズダンスなど、みんなの意見をもとに、自分たちのやりたいジャンルのダンスを練習しています。振り付けは完全オリジナルなので、意見を出し合い作品を完成させていきます。時には意見が衝突することもあるけれど、それを乗り越えて大勢の人の前で披露できた時の達成感は最高! ダンスをしている私たちも、思わずテンションが高くなるんです。



名古屋経済大学高蔵高等学校 2年 ダンス部 副部長 三矢 樹 さん(左) 部長 上野 竜樹 さん(中)と副部長 鈴木 杏菜 さん

高大連携イベント

市邨校・高蔵校の生徒が名経祭を盛り上げる

高大連携イベントとして、市邨・高蔵校の生徒が名経祭に参加。1日目は、ロンドンオリンピック体操女子日本代表として活躍した市邨高校2年の寺本明日香さんが、所属するレジックススポーツ代表の坂本コーチ、橋口コーチとともにトークショーに出演。さらに、高蔵高校のバトン部・ダンス部による華やかなステージも繰り広げられました。キレのあるダンスはもちろんのこと、コスチュームにも注目が集まり、観客から大きな拍手がおくられました。

2日目は市邨高校の軽音楽部が、寺本さんに贈ったオリジナル応援歌「明日へ」を演奏。軽音楽部は、高校生バンドフェス大会において「最優秀グループ賞」「ベストプレイヤー賞」に何度も輝く実力派。この曲も新聞やテレビなどマスコミに取り上げられ、話題となっています。そのほか、本学が企画した「被災地ボランティア・視察研修」に参加した生徒が「東日本大震災復興支援ボランティア報告会」で発表を行うなど、さまざまな活動を通して高大の交流が深まっています。



佐々木 学長(右)と伊藤博美 准教授



トークショーで質問に答える寺本さん、左から坂本さん、橋口さん



オリジナル曲を熱唱する市邨校 軽音楽部



市邨校 軽音楽部のステージ



高蔵校 ダンス部のパフォーマンス



高蔵校 バトン部のステージ

秋のオープンキャンパス

参加者がキャンパスツアーやアルミ缶アートを体験



秋のオープンキャンパスは、大学祭と同時開催。佐々木学長は、「人・モノ・金が世界を行き来するグローバル化が進む今、覚えるだけの従来の勉強ではなく、体験したことのない事柄にぶつかった時に解決できる、学ぶ力を身につけて欲しい」と、歓迎の言葉をおくりました。その後、寺本さんのポスターやサイン色紙のプレゼント抽選会を行いました。

全体会を終えた参加者は、キャンパスツアーや相談コーナーに立ち寄り、アルミ缶アートを体験するなど、それぞれに秋のひとときを楽しんでいました。



それぞれの個性が輝き、若さあふれる「キャリア祭」

10月28日(日)、短期大学部キャリアデザイン学科の第3回キャリア祭が“Palette with Brightness”をテーマに開催されました。

表情美研究家の浜島由美氏による講演会にはじまり、MoGi Choice(模擬店アピール)、liberal smartとQajiff のライブ、ビンゴ大会そしてこの日一番の輝きを放ったファッションショーなど色とりどりのステージが展開されました。焼きそばやcafé BARなどの模擬店も大盛況でした。

最高の思い出づくりができた瞬間

名古屋でドラゴンズ以外の思い出をつくらうと、兵庫県からキャリアデザイン学科に入学。昨年の盛り上がりを超えるキャリア祭にしよう、実行委員長として頑張ってきました。最初から最後までみんなに支えてもらってばかりの頼りない委員長でしたが、感動的な学祭になったことに幸せを感じています。この経験を通してたくさん仲間ができて、最高の思い出とともにまたひとつ私を成長させてくれました。

短期大学部 キャリアデザイン学科 2年
キャリア祭実行委員長 楠橋 美幸さん



フィナーレで挨拶をする楠橋さん



観客を魅了した「ファッションショー」



2012ミスキャリアに輝く楠橋さん



元気にMCをつとめる1年生



ゆったりカフェタイム



「ピンゴ!」に大歓声

キャリア祭講演会

“キレイ”をもっと楽しみたい女性に! 「今すぐできる“愛され笑顔術!”」

10月28日(日)、キャリア祭(名駅サテライトキャンパス)のオープニングイベントとして講演会が開催されました。キャリアデザイン学科と名古屋経済大学比較文化研究会との共催事業でした。講師には表情美研究家の浜島由美氏をお招きし、「キレイをもっと楽しみたい女性に! 「今すぐできる“愛され笑顔術!”」と題してお話を伺いました。



講演では、自分の思うような笑顔表現できないのは顔の筋肉、咀嚼筋と表情筋が硬くなっているからで、これを毎日ほぐすエクササイズを続けると、見違えるような素敵な笑顔に変えることができると

話されました。そして、実際に顔の筋肉を動かす方法を指導していただきました。

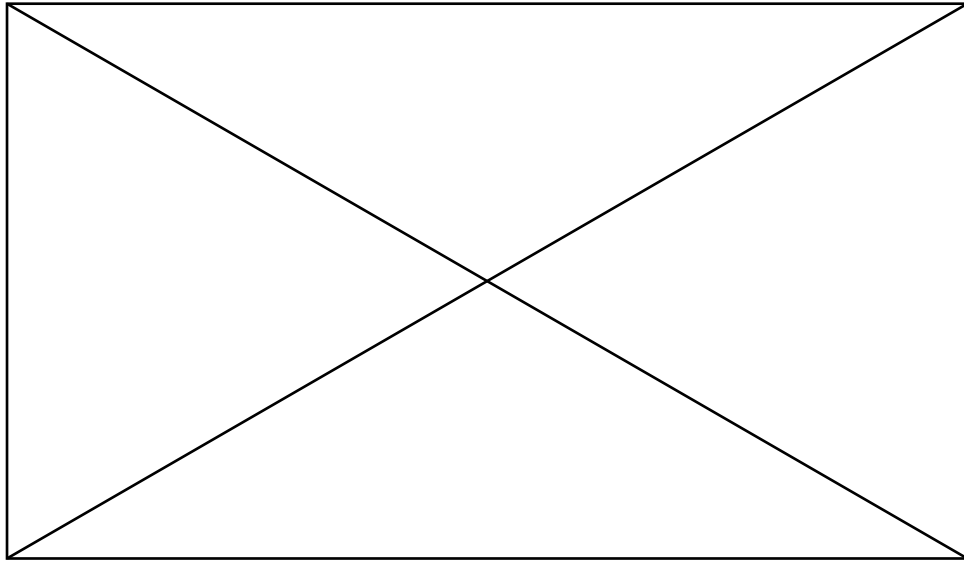
講演を聴きに来られた方のお顔のマッサージを講師がなさったり、講師ご自身の頬の柔らかさを参加された皆さんがふれさせていただいたりと、大変興味深く、また大変和やかなひとときを過ごすことができました。浜島先生、ありがとうございました。

短期大学部 副学長 高田 豊實 教授

Profile

はまじま ゆみ
美容医学研究所「Raffinity」代表、医療法人康徳会・はまじま歯科クリニック理事、Belle volonte代表・日本アンチエイジング歯科学会理事、歯科衛生士、ホワイトニングコーディネーター、表情筋トレーナー、スマイルスト、ウォーキングスタイルリスト、日本アンチエイジング歯科学会認定 サプリメントアドバイザー・ビューティアドバイザー・メディスンアドバイザー・マナーコーディネーター、日本歯科審美学会会員、日本抗加齢医学会会員





ライオンズクラブの地区ガバナーに就任

私は昭和37年3月、愛知大学法学部法学科を卒業。同大学院私法法学研究科に入学したものの、1年足らずで退学してしまっ。10数年が過ぎたある日、「大学院は辞めて欲しくなかった」とポツリと言った母の言葉に強い衝撃を受け、修士学位は母に捧げるため、60歳で名古屋経済大学大学院に1期生として入学した。2年後、修士学位の修了証書を母に渡すと「おまえ、大学に通っていたのか」と言いながら、母は目を潤ませていた。この「母に贈る修了証書」により、私の人生で一つの大事が達成できたという満足感に浸ることができた。また、同年4月に



は企業法学専攻博士後期課程に入学。研究論文に悪戦苦闘しながら6年もかかり、博士(法学)の学位取得ができたことは、指導教授をはじめ諸先輩・関係各位のお力添えと感謝しております。

そして、平成23年7月、アメリカ・シアトルにおいて、ライオンズクラブ国際協会ウィングン・タム国際会長より地区ガバナーの認証状が渡され、新たな任務が始まりました。エリアは、岐阜県全域と三重県全域で、恒例公式訪問行事が始まることになりました。各地区



で伝統料理を振る舞っていただくことが唯一ガバナーの慰労でありました。ライオンズクラブは世界207カ国136万人の会員を有する世界最大の奉仕団体です。私たちは青少年育成・海外派遣・薬物乱用防止・災害援助・発展途上国への援助など、「ウイ・サーブ」をモットーに奉仕活動をしています。今後は、同地区の名誉顧問会議長として、さらなる努力をしていく所存であります。また、名古屋経済大学同窓会にも寄与していければと思っています。

大学院法学研究科 企業法学専攻博士後期課程
2008年卒業 中村 光宏 さん

Profile

なかむら みさお
1939年 三重県生まれ。2008年3月、名古屋経済大学大学院法学研究科企業法学専攻博士後期課程(法学)博士満期修了。博士(法学)学位取得。2011年7月、ライオンズクラブ国際協会334-B地区ガバナー就任。2012年6月、同地区ガバナーを退任。同年7月、同地区名誉顧問会議長に就任し、現在に至る。

カナダ海外語学研修

失敗とチャレンジから学ぶ「海外語学研修」

夏休み期間中の8月26日(日)～9月10日(月)まで、短大部キャリアデザイン学科主催の海外語学研修が実施されました。研修地は恒例のカナダ西海岸の都市バンクーバーです。

今年度は短大生4名、学部生3名が参加しました。

この行事の主目的は英語の勉強をすることですが、日本での英語の勉強とは大きく異なります。得意不得意にかかわらず、朝の挨拶からバスや電車での通学、買い物に至るまで、英語で日常生活をこなさ、また英語で授業に参加しなければなりません。またホームステイでは生活力が試されます。自分で解決に向けて働きかけないと、自分には食べられない料理が出て食事を抜いたり、タイミングが分からなくてシャワーが浴びられなかったりします。海外語学研修ではこうした経験を通して、日頃意識しない自分の姿を見つめる機会を与えてくれます。今回も参加した皆さんは一人ひとりがそれぞれの失敗とチャレンジから多くを学んで研修を修了しました。

短科大学部 キャリアデザイン学科 武田 康雄 教授



ワイラール山麓 レインボーパークにて

世界大会で堂々の15位獲得!

「MOS 世界学生大会 2012」決勝戦が、7月29日(日)～8月1日(水)(現地時間)にアメリカ ラスベガスで開催され、本学から出場した仲村力也さんは、エクセル2007部門で世界第15位になりました。

この大会には、世界53ヶ国から延べ521,000人もの学生が参加(日本からは約65,000人が参加)。その中から選ばれた各国の代表が、それぞれワード、エクセル、パワーポイントのスキルを競いました。

●「MOS世界学生大会 2012」決勝戦に参加して

米国サーティボット社のスタッフの方々をはじめ各国の代表と交流でき、楽しい時間を過ごすことができました。この経験を活かして、まずは英語力をつけると共に、これから控えている就職活動で今回の経験を役立てたいと思います。

また、パワーポイントなどの資格も取得し、IT社会に貢献できる人材になりたいと思います。

経営学部 経営学科 2年 仲村 力也 さん



表彰式で祝福を受ける仲村さん

平成24年度 育英奨学生

「育英奨学生」に選ばれました

本年度の「育英奨学生」(公益財団法人大幸財団)に応募した法学部3年の江坂美咲さんは、日ごろの学業成績が優秀であることが認められ、時代に対応する優秀な人材として愛知県内20名の一人に選ばれました。

また、「留学生育英奨学生」に応募した経営学部3年の周洪さんは、愛知県内に留学する優秀な人材として将来を期待され、愛知県内10名の一人に選ばれました。



法学部 法学科 3年 江坂 美咲 さん



経営学部 経営学科 3年 周 洪 さん

開田高原 夏休み学習合宿



開田高原研修センターをバックに記念撮影



尾ノ島の滝をバックに

開田高原でそばを堪能

卓球でリフレッシュ

ハイキングの途中で見つけた「コスモス」

資格の勉強に取り組むことができました

僕はこの開田高原での合宿を通して、さまざまな分野の勉強に取り組みました。合宿の期間が5泊6日という長い期間だったので、秋の資格試験はもちろん来年に向けての資格の勉強に取り組む時間もありません。長い時間勉強をしていると集中力が持たないのではないかと不安でしたが、周りの空気もおおしく涼しかったので勉強に集中できました。企画者の一田さんが勉強の合間にイベントを盛り込んでくれたので、飽きずに合宿を過ごせたと思います。同行された萩原先生には、自習が終わった後に特別授業も行っていただきました。まったくわからなかった問題もありましたが、丁寧に教えてもらい、理解することができました。次回もぜひ参加したいと思っています。

法学部 ビジネス法学科 2年
辻 甫之 さん



授業で学んだことを合宿で実践

今回、授業で学んだ知識を生かし、「法学部の方々へ栄養バランスと美味しさを考えた食事を提供しよう」という目的で合宿に参加しましたが、はじめてのことばかりで初日からとても苦戦しました。特に多数の人に食事を提供するためには作業効率を高める必要があり、改善していく大変さを知りました。授業で学んだことを実践でき、とても貴重な体験となりました。このような体験を無事に終えることができたのは、勉強班および先生方の協力があったからだと思っています。

今回の合宿では、まだまだ改善する点が多く、この経験を生かし、もっと努力していきたいと強く感じています。またこのような機会がありましたら、ぜひ参加したいと思いました。

人間生活学部 管理栄養学科 2年
料理研究サークル代表 坪内 祥子 さん



インターンシップ

【豊橋鉄道株式会社】いろいろな総合職を体験

私は鉄道業界に興味があったので、豊橋鉄道のインターンシップに参加しました。豊橋鉄道では大卒は総合職で活躍しているため、総合職としてツアー添乗をはじめホテル、駅員、営業を体験しました。まさか鉄道分野以外の仕事を体験できると思ってもみませんでした。どの職場に行っても雰囲気がよく、とても働きやすかったです。心がけたのは言葉使いで、どの職場でもとても気を使いました。

また、職務では「一番近い銀行はどこか？」など、お客様からいろいろな質問をされるので、その質問に答えるのがとても大変でした。「鉄道会社は豊橋鉄道のようにいろいろな業界に参入しており、しっかりと調べておかないと自分が就きたい仕事に就けない可能性がある」とアドバイスをいただきました。

この経験を生かし、しっかりと企業研究をして、これからの就職活動に臨んでいきたいと思っています。

法学部 法学科 3年 石川 直也 さん



【藤枝市立駅南図書館】対応の大切さを学びました

「自分の住んでいる町の仕事を体験してみたい」その思いから、地元静岡県藤枝市立駅南図書館で職業体験をさせていただきました。期間中は、主に本の貸出や返却、返本作業、書架整理などのお手伝いをさせていただきました。実際に仕事を体験してみて感じるのは、図書館で働く職員さんの対応がすごく丁寧だったということです。平日は約1,500人、土日は約1,900人もの方々が訪れ、図書館を利用される年齢層も小さな子どもから高齢者までと、さまざまです。それらの人たちに対して一人ひとり丁寧に対応する様子は「かっこいい」と思いました。今回のインターンシップを通して普段利用している図書館の内面を知ることができ、今までとは違った視点で見ることができました。これから就職活動が本格化していきますが、この経験を生かしていけたらと思います。

今回のインターンシップで貴重な体験をさせていただきましたこと、指導してくださった職員の方々に深く感謝したいと思います。

法学部 法学科 3年 大石 龍 さん



【ホンダカーズ静岡西】自分を見直すきっかけに

インターンシップで私が特に学んだことは、人に対する接し方でした。一緒に働いている人でも何気ない一言で印象が変わります。特に初対面では相手の性格がわからないので、第一印象が決まってしまう。相手のことを思って話せば、相手も気持ち良く会話をしてくれるのだと感じました。これは営業職だけに限らず、大切なことです。今回のインターンシップは、改めて自分の話し方、接し方を見直すことのできる大きな機会になりました。

経済学部 現代経済学科 3年 田中 麻矢 さん

【犬山市役所】素晴らしい経験

私は犬山市役所で、市役所内はもちろん児童センターや観光案内所で業務を体験させていただきました。市役所の業務はデスクワークのイメージが強かったのですが、実際は現場に出ることも多く、市民の目線を大事にしている印象を受けました。職員の方々は相手の立場に立てて接しており、そのことが一番大事なことと感じました。今回は自分のいたらない点にも気付くことができ、とても素晴らしい経験をする事ができました。

法学部 法学科 3年 古知屋 奈央 さん

学内コース別インターンシップ (短期大学部 キャリアデザイン学科)

参加学生の声



グループワークの様子

今回の演習を通して、コミュニケーション能力とマネジメント能力についてはある程度備わっていると思いました。しかし、先見性については難ありと感じました。「市場での条件がどう変化するのか」「何を求められているのか」をもっとしっかりと見極めていかなければなりません。今後は、アンテナを様々な方向に伸ばし、多くの情報を収集、処理する努力をしていきたいと思っています。

短期大学部 キャリアデザイン学科 1年 ●社長役 浅井 久美子 さん

営業を担当し、チームと顧客のニーズに合わせた交渉をしました。1回目はあまり積極的になれず、赤字を出してしまいましたが、2回目は売上目標をかなり高くし、製作と歩調を合わせて黒字にすることができ、達成感を感じました。

短期大学部 キャリアデザイン学科 1年 ●営業役 阿知波 英子 さん

チームワークの大切さを学びました。私のグループでは多くのハガキを作り、利益を出すことができました。その1番の理由は、きちんとそれぞれが役割を分担して協力することができたからです。あまり面識のない人も仲良くなれ、楽しんで作業することができました。社長のマネジメントの下で、「どうしたら速くハガキを作ることができるのか」「どうしたら利益を上げることができるのか」を全員で考え、話し合いました。3日間で疲れも感じましたが、楽しい研修でした。

短期大学部 キャリアデザイン学科 1年 岩井 咲紀 さん

短期大学部 キャリアデザイン学科 水口 美知子 准教授

市邨高校2年 寺本明日香さん、ロンドン五輪で輝く



平成24年8月3日 中日新聞より

パブリックビューイングで熱い声援

ロンドンで活躍する寺本さんを少しでも励ますことができればと願い、予選:日本時間7月30日(月)、団体決勝:日本時間8月1日(水)、個人総合:日本時間8月3日(金)の生中継に合わせて、市邨校の会議室でテレビ観戦会を行いました。ロンドンとの時差で、いずれも深夜の放送となったため、生徒の参加に関しては保護者同伴の厳しい条件が付きましたが、それでも毎回50人を超える応援団が集まり、

心を合わせて声援を送ることができました。

オリジナルTシャツとマフラータオルの応援グッズ、日の丸の小旗も用意され、日本選手の中で一番安定感のあった寺本さんの技が決まるたびに、歓声と拍手がわき起こりました。

ロンドンにまで日本からの熱い声援が届いたのか、寺本さんは伸びのびとした演技で団体8位に貢献。個人総合でも11位と大活躍しました。



熱い歓声と拍手にわく会議室

～市邨校～

野球場新設

市邨校と高蔵校の両校野球部が利用させていただくことができる、野球場が新設され、8月22日(水)竣工式が執り行われました。これまで校内での野球部の練習環境としては、専用の施設としてネットに囲まれた内野部分の広さのスペースが確保されていましたが、外野の守備練習やバッティング練習には、他の部活動のすき間を縫うなど、たいへんな苦勞がありました。土日の大半はグラウンドが使える他校に出かけ、練習試合を組むなど工夫をしてきました。

この夏完成した新しいグラウンドに選手たちはとても喜んでます。練習環境の向上を受け、今後両校の野球部のさらなる活躍が期待されます。



厳かに執り行なわれた竣工式



末副理事長による始球式



「プレイボール」マウンドへ駆け出す市邨ナイン



はつらつとしたプレイ

～高蔵校～

「被災地ボランティア・視察研修」に参加して

9月15日(土)から18日(火)、大学が企画する「被災地ボランティア・視察研修」に、高蔵校の中・高生6名と教員2名が参加しました。

宮城県大川町や石巻市の被災地を巡り、津波がもたらした爪跡を見ました。その生々しさから、被災に遭った方々の苦しみや悲しみを実感することができました。他方で、被災地の各所に、復興を決意する言葉が掲げられて、現地の方たちが前向きに、かつ、力強く生きていこうとする姿勢に心をうたれました。

石巻市内の仮設住宅永井団地を訪れ、団地住民代表の方からお話を伺いました。悲惨な体験談に涙を浮かべつつも、私たちは言葉に勇気づけられました。「ボランティアの皆さんが来てくれるだけで、私たち被災者は大いに救われます。自然と笑顔になれるからです。ありがとう」ボランティア活動の目的が、明瞭に語られた瞬間、私たちは爽やかな成果を得られたと思います。

ボランティアは、牡鹿町鮎川地区で、草刈りや竹の切除を行いました。誰もが汗水たらして、作業に取り組んでいました。活動中、私の目に、うれしい光景が飛び込んできました。それは、高蔵生が大学生の皆さんと会話しながら、作業していたことです。

大学の先生方や学生さんと接する機会が、高蔵校関係者には、ほとんどなく「ボランティア・視察研修」に参加したことによるもう一つの成果が、イベントを通じての高大連携。イベントであれば、大学の先生方や学生さんと、より和やかに交流できるのではないかと思います。実際、視察や

ボランティア中に、高蔵生たちが学生さんと談笑したり、あるいは、真剣に話し合ったりしている場面をよく見かけました。学生の皆さんと話す時、高蔵生はうれしそうなお顔を浮かべていました。

9月29日(土)、高蔵校の文化祭で、特別企画「震災報告会」が実施されました。中日新聞(平成24年9月29日付)で紹介されたように、報告会では、高蔵生と大学生の皆さんが、被災地ボランティアの活動体験を発表しました。この企画により、高大連携がまた一歩進んだと言えるでしょう。今回の特別企画が実現したのも、上記の「ボランティア・視察研修」で、高蔵校と大学がつながったためです。一つのイベントが起点となって、別のイベントを引き起こす。こうした形での高大連携が、互いの関係を深めていくと思います。事実、10月21日(日)の「名経祭」では、数名の高蔵生が「ボランティア・視察研修」の報告会に参加しました。

今回の「被災地ボランティア・視察研修」は、高蔵校関係者にとって、貴重な体験となりました。この企画があったからこそ、「イベントを通じての高大連携」という可能性も、見えてきました。高蔵校の生徒と教員の参加に、何かと配慮して下さった大学の関係者の皆さまに感謝申し上げます。

名古屋経済大学
高蔵高等学校・中学校
花田 達郎 教諭



研修先で記念撮影



平成24年9月29日 中日新聞より

入試日程

平成25年度(2013)入試日程

※選考方法については、「2013年度入学試験要項」にてご確認ください。

大学・短期大学部

入試区分	エントリー期間(消印有効)	第一次審査日	審査結果発表日	正式出願期間	第二次審査	合格発表日
AO	Ⅰ期	平成24年11月5日(月)～11月16日(金)	11月24日(土)	11月27日(火)	平成24年11月28日(水)～12月3日(月)	12月14日(金)
	Ⅱ期	平成24年12月12日(水)～平成25年1月7日(月)	1月12日(土)	1月15日(火)	平成25年1月16日(水)～1月22日(火)	2月1日(金)

入試区分	現代経済	経営	法学部	人間生活科学部	短期大学部		出願期間(消印有効)	面接日・試験日	合格発表日		
					ビジネス法	教育保育				管理栄養	保育
公募制推薦	Ⅱ期	A方式(基礎力テスト型)	○	○	○	○	○	平成24年11月19日(月)～11月30日(金)	12月9日(日)	12月14日(金)	
		B方式(小論文型)	○	○	○	○	○				○
		C方式(基礎力テスト+面接型)	○	○	○	○	○				○
		D方式(小論文+面接型)	○	○	○	○	○				○
		E方式(自己PR型)	○	○	○	○	○				○

入試区分	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日	試験会場	
学力1期*	A日程	平成25年1月7日(月)～1月18日(金)	1月26日(土)	2月1日(金)	犬山、名駅
		1月27日(日)	犬山、名駅、津、浜松、福井、松本、那覇		
	B日程	平成25年1月7日(月)～1月25日(金)	2月4日(日)	2月8日(金)	犬山、名駅
C日程	平成25年2月6日(水)～2月15日(金)	2月24日(月)	3月1日(金)	犬山、名駅、津、浜松、福井、松本	

※試験の高得点者は、入学金及び毎年の学納金(授業料、施設整備費、維持費、教育充実費)を免除。

入試区分	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日	試験会場	
センター試験利用*	Ⅰ期	平成25年1月7日(月)～1月30日(水)	2月4日(月)送受信	2月8日(金)	個別試験はありません。
	Ⅱ期	平成25年2月4日(月)～2月19日(火)	2月22日(金)送受信	3月1日(金)	

※試験の高得点者は、入学金及び毎年の学納金(授業料、施設整備費、維持費、教育充実費)を免除。

大学院

研究科	専攻	試験会場	課程	入試区分	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日
法学	企業法学	名駅サテライトキャンパス	博士後期	Ⅱ期	平成25年1月4日(金)～1月15日(火)	2月9日(土)	2月13日(水)
	法学		修士				
会計学	会計学		博士前期	Ⅱ期		2月10日(日)	2月13日(水)
	博士前期		修士				
人間生活科学	幼児保育学	犬山キャンパス	修士	Ⅱ期	平成25年1月15日(火)～1月23日(水)	2月16日(土)	2月19日(火)
	栄養管理						

※上記各研究科・専攻の入試には、推薦、一般、社会人、外国人留学生の入試区分があります。
※人間生活科学研究科(修士課程)では、Ⅲ期試験(3月)も実施します。

成績優秀者優遇制度を拡充

佐々木雄太 新学長のもと、大学の将来を見ずえ入試制度についてさまざまな改革が行われています。平成25年度入試においては、従来の学力入試、センター試験利用入試の高得点者の優遇制度(プラチナ特典)を大幅に拡充しました。すなわち、学力入試、センター試験利用入試の高得点者(合計得点が8割以上)に対して、入学金および毎年の学納金(授業料、施設整備費、維持費、教育充実費)を免除するというものです。従来は、授業料のみ1年間の免除で、対象も大学のみに限られていたもので、大幅な拡充になります。

また、一定の歯止めとして2年次以降の授業料免除については、前年度における一定基準の単位修得(原則として30単位以上)と、在籍する学部の進級要件を満たすことが条件になっていますが、普通に学習していれば無理なくクリアできる条件です。

また、指定校推薦制度の一環としての特別奨学生制度も、平成25年度入試より条件を緩和し内容も大幅に拡充しました。

今回の優遇制度の拡充は、大学の新体制の改革の一環であり、優秀な学生を確保し学内の活性化を図ることを目的とし、その成果が期待されています。

「学力入試」「センター試験利用」入学試験の成績優秀者 入学金・4年間の学納金※免除!

対象者：大学・短期大学部全学部の学力入試・センター試験利用入試において試験の得点が8割以上の者

1. 入学金 200,000円を免除
2. 毎年の学納金(※授業料・施設整備費・維持費・教育充実費)を免除

学部	学科	免除額
経済学部	現代経済学科	1,000,000円
	経営学部	
法学部	ビジネス法学科	1,040,000円
	教育保育学科	
人間生活科学部	管理栄養学科	1,040,000円
	保育科	
短期大学部	キャリアデザイン学科	1,030,000円

※2年次以降の学納金免除には条件があります。(左記文中参照)

短期大学部の年額授業料 10万円減額!

平成25年度入学生より、短期大学部の授業料(従来は年額700,000円)を年額600,000円に減額いたします。

決算報告

平成23年度 学校法人市邨学園決算報告

① 資金収支計算書 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
① 学生生徒等納付金収入	3,436,466	3,454,922	△18,456	人件費支出	4,752,127	4,661,750	90,377
② 手数料収入	76,764	79,120	△2,356	教育研究経費支出	975,290	822,167	153,123
寄付金収入	11,131	12,898	△1,767	管理経費支出	501,534	416,884	84,650
③ 補助金収入	1,366,953	1,367,373	△420	借入金等返済支出	341,500	341,341	159
資産運用収入	30,252	35,801	△5,549	⑥ 施設関係支出	540,000	512,967	27,033
事業収入	4,070	4,070	—	⑦ 設備関係支出	87,308	62,787	24,521
雑収入	236,726	221,082	15,644	資産運用支出	7,670	6,435	1,235
借入金等収入	5,564	5,564	—	その他の支出	735,542	719,865	15,677
④ 前受金収入	893,875	917,189	△23,314	予備費	15,000	—	15,000
その他の収入	1,465,790	1,427,148	38,632	⑧ 資金支出調整勘定	△398,366	△357,003	△41,363
⑤ 資金収入調整勘定	△1,228,014	△1,221,300	△6,714	次年度繰越支払資金	2,273,768	2,648,500	△374,712
前年度繰越支払資金	3,531,826	3,531,826	—				
収入の部合計	9,831,393	9,835,693	△4,300	支出の部合計	9,831,393	9,835,693	△4,300

① 学生生徒等納める授業料や入学金等です。⑤ 収入として計上したが未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に⑥ 支出として計上したが未払いとなっているもの
② 主に入学検定料です。⑥ 受け入れている収入を差し引くことにより資金の収支額を調整するための勘定です。⑦ 前払金支出として前年度までに支払っている支出を差し引くことにより資金の支出額を調整するための勘定です。
③ 国や地方公共団体からの補助金です。⑧ 土地、建物、構築物等の取得による支出です。
④ 翌会計年度に属する収入を当該年度において収納したものです。⑦ 教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書等の取得による支出です。

② 消費収支計算書 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	予算	決算	差額	科目	予算	決算	差額
学生生徒等納付金	3,436,466	3,454,922	△18,456	① 人件費	4,646,085	4,503,325	142,760
手数料	76,764	79,120	△2,356	② 教育研究経費	1,605,290	1,380,516	224,774
寄付金	16,131	16,427	△296	③ 管理経費	573,534	484,891	88,643
補助金	1,366,953	1,367,373	△420	資産処分差額	44,650	40,052	4,598
資産運用収入	30,252	35,801	△5,549	徴収不能引当金繰入額等	1,700	461	1,239
事業収入	4,070	4,070	—	予備費	15,000	—	15,000
雑収入	203,222	194,700	8,522				
帰属収入合計	5,133,858	5,152,413	△18,555				
基本金組入額合計	△365,000	△370,868	5,868				
消費収入の部合計	4,768,858	4,781,545	△12,687	消費支出の部合計	6,886,259	6,409,245	477,014
				当年度消費収支差額	△2,117,401	△1,627,700	

① 教職員に支払われる給与等です。③ 学校を管理する業務のために支出した諸経費です。
② 教育研究活動に支出した諸経費です。

(単位:千円)

③ 貸借対照表 (平成24年3月31日現在)

資産の部				負債・基本金及び消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	23,775,603	24,752,082	△976,479	固定負債	3,260,544	3,726,871	△466,327
有形固定資産	18,926,321	19,006,336	△80,015	流動負債	1,755,376	2,062,143	△306,767
土地・建物・構築物	16,706,507	16,749,843	△43,336	基本金	30,375,672	30,004,804	370,868
機器備品・図書等	2,219,814	2,256,493	△36,679	消費収支差額	△8,438,121	△6,810,421	△1,627,700
他固定資産	4,849,282	5,745,746	△896,464				
流動資産	3,177,868	4,231,315	△1,053,447				
現金預金	1,068,883	1,550,042	△481,159				
他流動資産	2,108,985	2,681,273	△572,288				
合計	26,953,471	28,983,397	△2,029,926	合計	26,953,471	28,983,397	△2,029,926

④ 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、年度中の諸活動に対するすべての収入及び支出の内容と年度中における支払資金のてん末を明らかにするものです。平成23年度の資金収支計算書は、上記の通りです。

本年度は、大学及び附属幼稚園の大規模改修等により施設関係支出が多額となりました。本年度収入額は6,303,867千円で前年度繰越支払資金3,531,826千円を加えた収入の部合計は、9,835,693千円となり、今年度支出額は7,187,193千円で、次年度繰越支払資金は2,648,500千円となりました。

⑤ 消費収支計算書の概要

消費収支計算書は、年度中の消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態を明らかにするものです。平成23年度の消費収支計算書は、上記の通りです。

本年度は、施設設備関係支出が多額となり基本金組入額は370,868千円で、消費収入の部合計は、4,781,545千円となりました。消費支出の部合計は、6,409,245千円で当年度消費収支差額は、1,627,700千円の支出超過額となりました。

⑥ 貸借対照表の概要

貸借対照表は、財政状態を明らかにするために、年度末に保有するすべての資産、負債基本金及び消費収支差額を表示しています。

期末の資産総額は、26,953,471千円で、前年比2,029,926千円減少しました。負債総額は、773,094千円減少しました。

自己資金(基本金+消費収支差額)は、前年度より1,256,832千円減少しました。

監査結果について

私たち学校法人市邨学園の監事は、私立学校法第37条3項3号の規定に基づく監査を行うため、平成23年度の学校法人市邨学園の業務及び財産の状況について監査を実施いたしました。

監査の方法は、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から事業の報告を聴取し、また重要資料を閲覧して業務の執行状況を監査し、また会計監査人と連携を取り財産の状況を監査いたしました。

監査の結果、理事の業務の執行に関しては法令及び附帯行為に違反する重大な事実はなく、また平成23年度の学校法人市邨学園の財務書類等は当該年度末における財産の状況を適正に表示しているものと認められます。

平成24年 5月28日